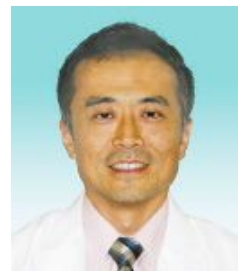


洛和会音羽病院 京都医学教育センター長

酒見英太 先生による教育カンファレンスのお知らせ

ベッドサイド診断の泰斗 G.C.Willis 先生を今もロールモデルと仰がれる総合内科医、酒見英太先生をお迎えし、北海道初の教育カンファレンスをおこなうことになりました。酒見先生は洛和会音羽病院において多くの大リーガー医をたずさえた高レベルな臨床研修教育の責任者をされ、その環境を求めて毎年全国から多くの研修希望者が殺到しております。また多施設カンファレンスの最高峰と呼ばれる「京都 GIM カンファレンス」のファシリテーターも務められ、病歴・身体所見から展開される臨床診断推論を通して幅広くかつ鋭くて深い議論を展開されています。そして参加した多くの医師の臨床能力のレベルアップにつながっているとされておりま



今回ご多忙な酒見先生から貴重なお時間をいただいたことは本当に幸運なことだと考えております。京都 GIM カンファレンスを再現するようなケースカンファレンス、関連する身体所見ミニレクチャーなど充実した内容が満載です。北海道の総合医療のレベルアップのためにも、是非この機会を逃すことなく共に勉強しましょう。

日時:平成 22 年 7 月 16 日(金)、17 日(土)

場所:江別市立病院 2F 講堂

参加費:無料

連絡先:江別市立病院 総合内科 主任部長 濱口杉大 s.hamaguchi@bz01.plala.or.jp

参加希望の方は 7 月 13 日までにお知らせください。

内容

京都 GIM カンファレンス方式の「ぶっつけ本番 Clinical Problem Solving」をたっぷりとおこないます。

これは診断推論の実際を参加者とインターアクティブに進めていく方式です

事前に何の情報も与えられていない、提示者しか知らない症例について、まずは病歴だけ、次に身体所見、ついで初期検査所見という具合に小出しに症例を提示していただきます。参加者には各ステップで鑑別診断を思い浮かべながら自由に質問をしてもらい、実際の臨床に即した形で診断を絞ってゆくプロセスを楽しむものです。最後に提示者による診断の種明かしとその症例から得た教訓を提示してもらいます。一連のセッションにおいてのディスカッションは酒見先生がリードしてくださいます。その後に酒見先生からその症例の身体所見に関するミニレクチャーがあります。

また 2 日目の症例検討には病棟回診も予定しております。

プログラム

日	時間	内容
7月16日(金)	17時45分～19時00分	過去の症例 1+身体所見ミニレクチャー
	19時00分～19時10分	休憩
	19時10分～20時25分	過去の症例 2+身体所見ミニレクチャー
7月17日(土)	9時00分～10時15分	病棟の症例+回診
	10時15分～10時30分	休憩
	10時30分～11時50分	相談症例検討
	11時50分～12時00分	まとめ、閉会

酒見英太(さけみ ひでた)先生の略歴

昭和 57(1982)年京大卒。2006年6月まで国立病院機構京都医療センター(もと国立京都病院)総合内科長および研修部長。2007年7月より洛和会京都医学教育センター所長および臨床研修プログラム責任者。2009年9月より洛和会音羽病院副院長兼任。

1989年より日本内科学会内科専門医。1990年から3年間、米国カリフォルニア州にて家庭医療学のレジデンスを修め、現在も米国ワシントン州医師免許、米国家庭医療学専門医および老年医学認定医を保持。2003年より京都大学医学部臨床教授。

趣味はバロック音楽の合唱。